

## 榛名・中室田又倉遺跡

～なぜ室田地区には古墳・奈良時代がないの？榛名山東麓の遺跡と比較した！～

高崎市立西小学校 5年1組

新井世絆コーリン

## 研究のきっかけ

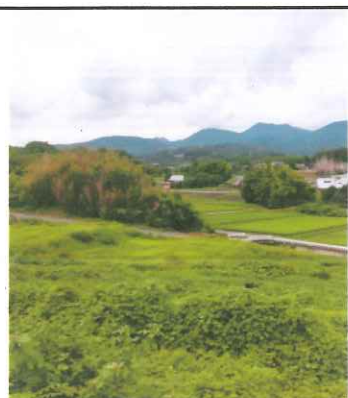
研究のきっかけは、曾祖母の家の畑で縄文時代の土器の破片を見つけたことから、中室田又倉遺跡に興味を持ったことが始まりです。

## 仮説

中室田又倉遺跡に古墳時代がない理由は、近くの山の火山活動が関係しているのではないか、と仮説をたてました。

## 調査方法

- ・ 県立歴史博物館と群馬県埋蔵文化財調査センターを見学する。
- ・ 実際に遺跡や古墳へ行って調査をする。
- ・ 参考文献やインターネットのデータベースで調べる。
- ・ 2つの遺跡を調査して、比較する。



現在の中室田又倉遺跡



子持中学の黒井峯遺跡の看板



現在の黒井峯遺跡

## 参考文献

榛名町誌、黒井峯遺跡看板資料、地質調査総合センターウェブサイト参照

# ①中室田又倉遺跡・曾祖母の畑で発見した土器と大きな疑問



## 中室田又倉遺跡とは

中室田又倉遺跡は、榛名山の南麓にあって、白川火砕流によって出来た台地の上であり、縄文時代の住居跡一棟と平安時代の村のような住居群跡が確認されている遺跡。縄文時代や弥生時代の土器が、複数の土器集中区から多数発掘されている。また、平安時代九世紀の鍛冶工房も発掘されている。

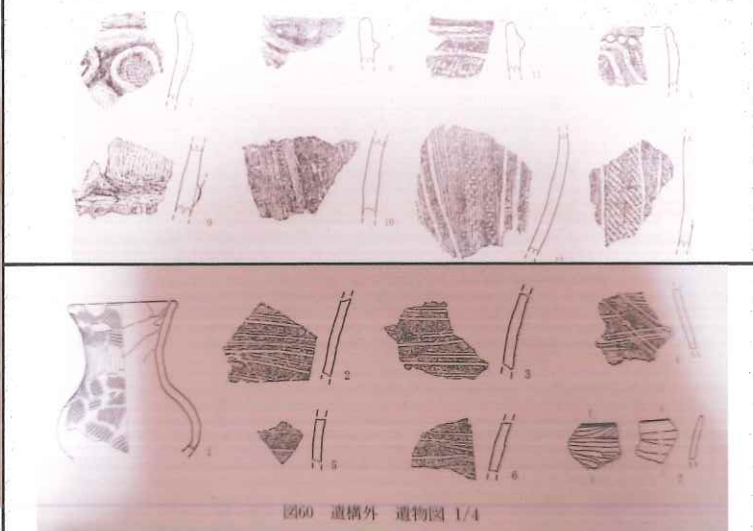


## 中室田又倉遺跡と曾祖母の家の関係

ぼくの曾祖母の家と畑は、又倉遺跡の南東部の高台に位置し、遺跡を見下ろせる位置にあります。僕が発見した土器片は、曾祖母宅西側の畑にありました。その後道路開発前の試掘と調査に来た高崎市文化財保護課の方に、本物の縄文土器弥生土器と確認してもらいました。

## 曾祖母の家で発見した土器片と又倉遺跡で発掘された縄文・弥生時代の土器片の拓本との比較(榛名町誌参照)

僕が見つけた土器片



## 中室田又倉遺跡について僕が考えたこと

僕が発見した土器片のうち、一部は、縄文土器の拓本のような模様がついていて、他は、刷毛でならしたような縞模様があり、弥生時代の土器の拓本と似ている。縄文弥生時代の人々は、水害を恐れて高台に家をつくって生活をしていたので、又倉遺跡発掘地域では縄文弥生の住居跡が見られないことから、もしかしたら曾祖母の家の辺りで、縄文弥生時代の人々は生活していたのではないかと考えている。

## 僕が持った大きな疑問


弥生時代まで人が住んでいたのに、その後、なぜ平安時代まで人が定住しなかったのか？平安時代までの空白の600年に一体何があったのか？室田地区の古墳・奈良時代は？

## ②中室田又倉遺跡と黒井峯遺跡を比較してみる

同じ榛名山の遺跡として、古墳時代の有名な遺跡の黒井峯遺跡と比較して、なぜ室田地区に古墳時代の遺跡がないのか、比較して考えていく。

中室田又倉遺跡	名称	黒井峯遺跡
	現地画像	
無し(畑) 高崎市中室田町	ステイタス	国指定史跡(公園) 渋川市
縄文、弥生、平安時代	時代	古墳時代
集落跡、土器、製鉄窯跡	出土品	集落跡、土器、人骨
土器集中区が複数あって、縄文土器などが見つかった	その他	榛名山二ツ岳噴火の火砕流で埋もれた集落
中室田岩城遺跡(縄文時代)	周辺の遺跡	金井東裏遺跡(古墳時代)
旧石器時代の打製石器も付近から見ついている。		付近から縄文時代の石器などが、見ついている。

### 2つの遺跡の地図情報の比較

地図	地図を見て気づいたこと
	<p>榛名山を挟んで二つの遺跡が反対にある。</p> <p>どちらの遺跡も、大きな川が近くにある。</p> <p>どちらの遺跡も榛名山がすぐ近くにせまっている。</p>

### 2つの遺跡の共通点と相違点

共通点	榛名山の麓の高台の台地であって、大きな川もあって、とてもよく似ている立地状態と環境である。
相違点	<p>台地の広さが違う。黒井嶺遺跡の方が扇のように広がっている。</p> <p>榛名山から見て黒井峯遺跡は東にあつて、又倉遺跡は南にある。</p>

### ③年表で2つの遺跡と火山活動を比較してみる

時代	火山活動	中室田又倉遺跡	黒井峯遺跡	日本の歴史
1万年前	榛名山噴火	出土品などから人が住んでいたことがわかる	出土品から人が住んでいたことがわかる	旧石器時代・縄文時代
5000年前				
B.C.1000年				
AD.1世紀～ AD.2世紀				弥生時代
AD.3世紀	浅間山が大噴火する	空白の時代	集落ができ、古墳を作り始める。 二ツ岳の噴火で集落が埋もれる。	卑弥呼死去
AD.4世紀				近畿地方に大和政権
AD.5世紀				
AD.6世紀	榛名山二ツ岳が2回噴火			
AD.7世紀				645年 大化の改新
AD.8世紀				710年 平城京遷都
				743年 墾田永年私財法
AD.9世紀～		人が再度住み始める。	付近に人が再度住み始める。	平安時代

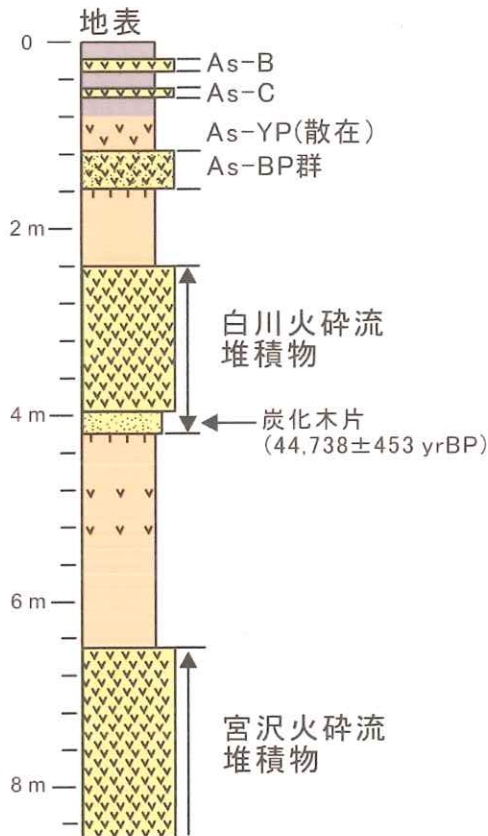
#### 年表で比較してわかったこと

浅間の噴火のあたりで、中室田又倉遺跡から人がいなくなっている。そして、743年の墾田永年私財法のあと、平安時代初期から人が住み始めたようにみえる。

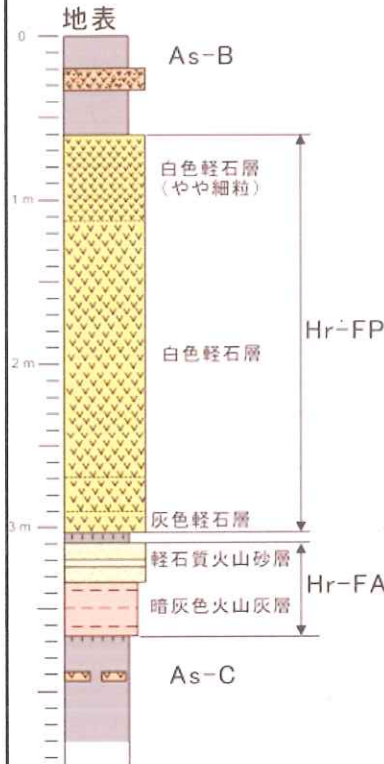
#### ④室田地区周辺(十文字)の地層と榛名山東麓の渋川の地層を比較して考える

室田地区の遺跡と榛名東麓の遺跡が火山活動と関係があると思って調べてみました。  
地質調査総合センターウェブサイト参照

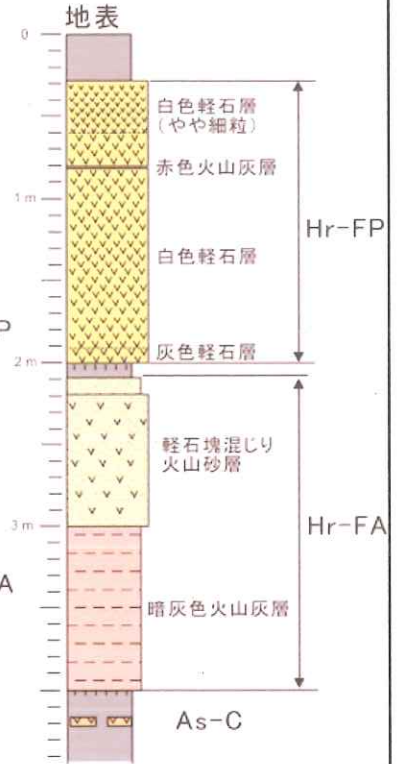
##### 高崎市十文字付近



##### 渋川市明保野付近



##### 渋川市水沢付近



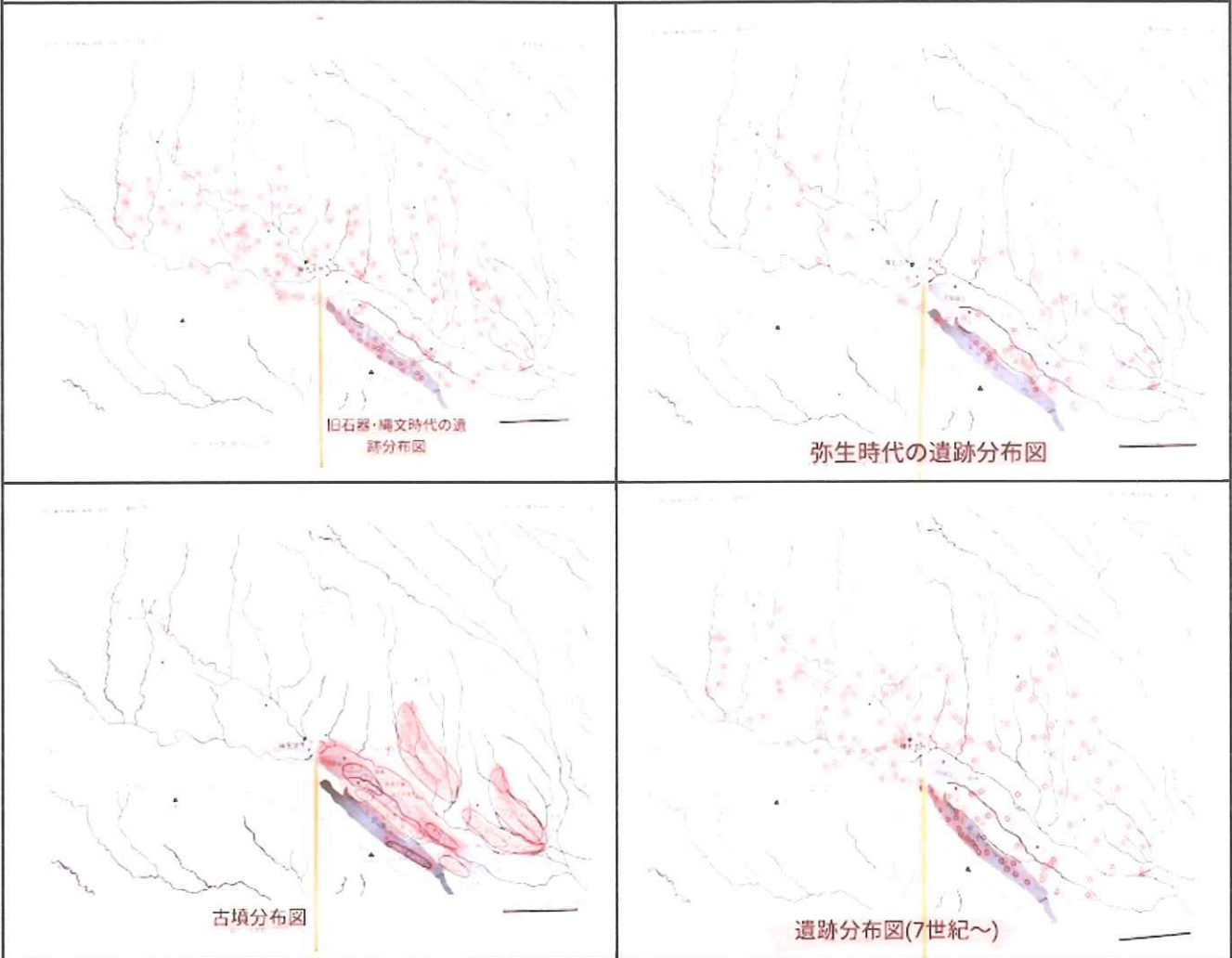
記号	意味
As-B	1108年の浅間の堆積物(軽石)
As-C	2世紀～3世紀頃の浅間の噴火の堆積物(軽石)
Hr-FP	6世紀前半の榛名二ツ岳の噴火(伊香保噴火)
Hr-FA	6世紀前半の榛名二ツ岳の噴火(渋川噴火)
As-YP/As-BP	1万6000年前から2万年前の浅間の噴火の堆積物

#### 地層を見比べてわかったこと

- ・室田地区は、ほとんど古墳時代の榛名の噴火の影響を受けていない。
- ・室田地区は、地表からすぐに浅間の軽石の層(As-BとAs-C)しっかりがあるのに対して、渋川の地層では、As-BとAs-Cの間に古墳時代の榛名二ツ岳の噴火の堆積物が大量にあるが、As-Cは室田地区と比べると、非常に少ない。なので、榛名東麓では、浅間の噴火の影響をあまり受けていないため、3世紀ごろも人が住み続けられたのではないかと思う。
- ・室田地区は、2世紀～3世紀の浅間の噴火の堆積物(As-C 軽石)がしっかり積もっている。

## ⑤ 榛名地区の古墳・遺跡分布図の時代別変化(榛名町誌参照)

榛名支所を中心にした地図で、室田地区と榛名全体の遺跡分布が時代によってどう変わったか調べてみました。



### 分布図からわかったこと

旧石器時代と縄文時代の遺跡は室田地区にたくさんある。  
 弥生時代の遺跡も室田地区に点在する。  
 室田地区は古墳がなく、里見や本郷などの地域に古墳が多い。  
 奈良時代後半から室田地区に人が戻り始めた。

### 室田地区から最寄りの古墳 下里見諏訪山古墳



### 僕が考えたこと

室田地区にいた人々は、弥生時代末期辺りから、浅間の噴火によって軽石がたくさん積もって、生活ができなくなったため、里見や本郷に移住していったのではないかと僕は考えました。そして平安時代ごろ室田地区に帰ってきて、村をつくって定住したのではないかと僕は考えました。

場所

高崎市下里見町

時代

6世紀

形・大きさ

帆立貝型古墳

出土品

土器、埴輪

## ⑥平安時代の中室田又倉遺跡

平安時代に中室田又倉遺跡に戻ってきた人々の生活について調べました。(榛名町誌参照)

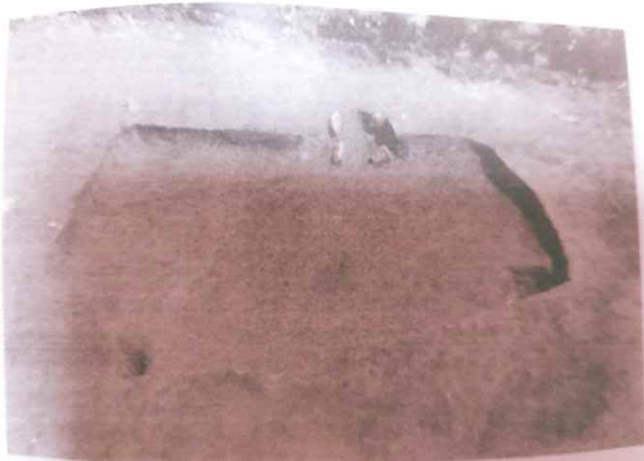
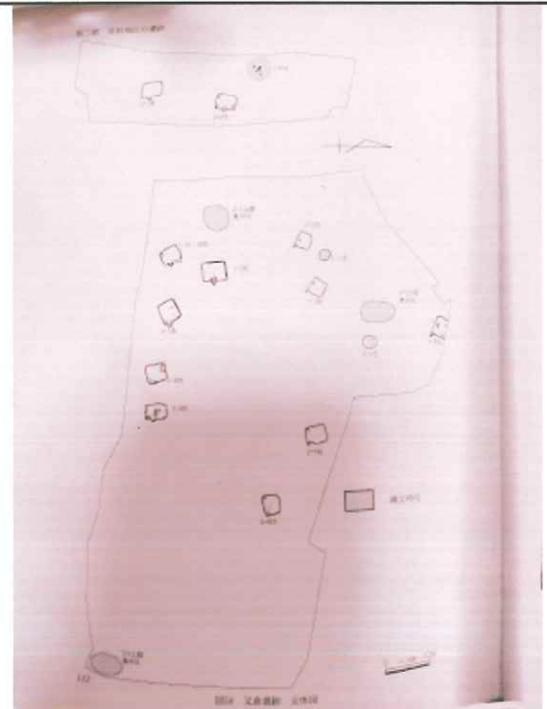


写真34 1-A・B号住 全景(南西から)

↑平安時代の住居跡と又倉遺跡の分布図→



### 平安時代の又倉遺跡の特徴

製鉄用の鍛冶工房が集落跡で見ついている。

住居跡の中にカマドが見ついている。

出土品は、須恵器、土師、器、砥石、刀子

### 出土品からわかる平安時代の中室田又倉遺跡の人々の生活

鍛冶工房があることから、製鉄の技術を持った人たちが、住んでいたことがわかる。

家の中にカマドの跡があるので、家の中で煮炊きしていたことがわかる。

砥石や刀子が見ついていることから、刀を作っていたと考えられる。

### なぜまた中室田又倉に人が戻ったのか？

僕は、743年に出た墾田永年私財法がきっかけで人々が戻ってきたと考えています。理由は、墾田永年私財法によって、自分で開拓した土地が、永遠に自分や自分の家族の土地になるからです。たぶん沢山の人が日本中で開拓しはじめたのではないかと思います。



## ⑦その後の中室田町又倉

1108年の浅間の噴火(天仁の噴火)で大量の軽石が飛んできて、田畑は、大きな被害を受けましたが、地方の有力者が荒地を開拓して荘園を大きくしました。16世紀後半から、僕のご先祖様も住み始め、今でも家族がすんでいます。



現在の中室田町又倉

## 研究結果とまとめ

この研究で、僕は、室田地区に古墳時代奈良時代がない理由は、3世紀の浅間の噴火で、大量の軽石が飛んできて、人がすめなくなっ、里見地区や久留間地区、本郷地区に移住していったからであることがわかりました。また、榛名山の東麓の黒井峯遺跡などの遺跡は、3世紀の浅間の噴火の影響を受けていないため、古墳時代も住み続けられたのではないかと僕は考えました。

榛名山をはさんで南と東の麓の台地の上にある二つの遺跡が、同じような立地条件なのに、浅間の噴火と榛名の噴火で古墳時代の運命が大きく変わってしまった事がわかり、もし、3世紀の浅間の噴火がなかったら、室田地区にも、黒井峯遺跡のような古墳時代のムラができていたかもしれない、と僕は思いました。

## 最後に

この研究をするにあたって、色々アドバイスをくださった群馬県埋蔵文化財調査センター発掘情報館の方、僕が見つけた土器を確認してくださった高崎市教育委員会文化財保護課の方、本当にありがとうございました。